



2026.03.03

2026年2月28日(土)、セキショウ・ウェルビーイング福祉会館4階大研修室において、2025年度第1回水戸塾が開催されました。参加者は15名でした。

当日は、はじめにグループワーク1「レジリエンスとは？」を水戸塾塾長の
大塚会長が担当し、続いてグループワーク2「職場でのコミュニケーション
の大切さ」を水戸協同病院臨床検査部 部長 石川真由美氏にご担当いただき
ました。短い時間ながらも各グループで活発な意見交換が行われ、参加者同
士が真剣に向き合う姿が印象的でした。



ブレイクタイムには、2026年度より発足する青年部「水戸塾」の紹介
が行われ、副部長 高野翔平氏、相談役 海野貴史氏より今後の活動方
針や展望について説明がありました。また、新たに青年部「水戸塾」
を共に盛り上げてくださる部員の募集も行われました。



講演では、『Upgrade yourself ～資格取得を「変化に強くなる自分」への第一歩に～』と題し、前半を茨城県臨床検査技師会 渉外公益事業部長 木村靖子氏、後半を同 副会長 内藤麻美氏が担当されました。資格取得を自己成長の機会と捉え、変化の時代に対応できる人材となるための具体的な考え方や実践について、大変示唆に富む内容となりました。



休憩時間の“もぐもぐタイム”では、茨臨技のロゴの焼き印が入った土浦名物のどら焼きと、栃木名物の岩下の新生姜を使用したスナックが振る舞われました。和やかな雰囲気の中で参加者同士の親睦が深まり、有意義な交流の時間となりました。

なお、当日の研修会の様子は、じほう MTJ 編集部の取材が入り近日中に掲載予定です。



今年度をもって、茨臨技人材育成部会「水戸塾」は一区切りとなります。2026年度からは青年部「水戸塾」として新たにスタートいたします。『名称』が変わっても、『志』は変わりません。若手技師の皆さまには、ぜひ引き続きご参加いただき、共に学び、共に成長していきましょう。



2026.02.16

2月12日（木）に令和7年度県民健康づくり表彰式が茨城県庁にて開催されました。この表彰式において、「多年にわたり臨床検査技師として医療福祉に関わる活動や県主催の事業に尽力するとともに、茨臨技の役員を歴任し地域住民の健康づくりに貢献した」として、当会から4名の方々が表彰されました。

知事賞：柳田 篤氏

保健医療部長賞：浦田 輝夫氏

菊池 宏明氏

中村 浩司氏

表彰された皆様、誠におめでとうございます。



2026.2.10

2月8日、第10回「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技講習）」が茨城県臨床検査技師会の担当により開催され、他県からの参加者2名を含む計54名が全課程を修了しました。今講習より他県技師会員の受け入れも開始し、当初は58名の事前申請がありましたが、当日は降雪による天候不良の影響で3名が来場不能となり、体調不良による欠席1名も含め4名の不参加がありました。講習会では、「静脈路確保の際の採血手法」について熱心に質問する姿や、既に業務として運用している施設、あるいは導入が決定している施設の参加者もあり、本活動が着実に臨床現場へと浸透していることを実感できる有意義な会となりました。

現在、茨城県内の講習修了者は661名、基礎講習履修済みは、なお、次年度より開催方式が県単位から関甲信支部単位によるに伴い、本県での開催は2年に1回程度となる見込みです。



2026.1.19

内藤副会長より、ご寄稿いただきました。

新年のあいさつ

公益社団法人茨城県臨床検査技師会

副会長 内藤 麻美

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員・賛助会員の皆様におかれましては、平素より茨城県臨床検査技師会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

医療を取り巻く環境は、ここ数年で急速に変化しています。生成 AI の導入やデジタル技術の進展は、臨床検査の在り方を根底から変えつつあります。検査の自動化・省力化が進む一方で、得られたデータをどのように解釈し、医師やチーム医療へ還元するかが、臨床検査技師の専門性としてより重視される時代となりました。AI が診断を支援する時代だからこそ、データの信頼性を担保し、倫理的判断を伴う人間の介在がこれまで以上に重要になっています。

加えて、少子高齢化や地域医療の再編、働き方の多様化など、医療現場が直面する課題は複雑化しています。こうしたなかで、限られた人員のもとでも安全で高品質な医療を支えるためには、組織的な連携と柔軟な発想、そして何よりも現場を支える臨床検査技師の力が欠かせません。当技師会でも、教育研修の拡充や若手技師の育成、地域連携の推進に取り組み、持続可能な検査体制の構築を目指してまいりました。

本年は、国際学会が幕張で開催される予定であり、世界各国の臨床検査技師が日本に集い、最新の科学的知見と実践を共有する貴重な機会となります。国際化が進む医療の中で、私たちも国内だけでなく、世界の技術者と共に学び合い、共通の品質基準や倫理観を持って活動することが求められています。グローバルな視点を持つことは、地域医療の質向上にも直結し、未来の臨床検査の発展に不可欠です。茨城からも積極的に声を発信し、国際的な交流の輪を広げていきたいと考えています。

変化の激しい時代だからこそ、私たちは原点に立ち返り、「正確で信頼される検査」を礎に、科学と人間性の調和を大切にしながら歩みを進めてまいります。

本年が、会員・賛助会員の皆様にとりまして、健康と希望に満ちた実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

高校生への職業理解支援に向けた社会人講話の実施報告

公益社団法人茨城県臨床検査技師会

副会長 内藤 麻美

本会では、臨床検査技師の専門性を社会へ広く発信する公的活動の一環として、教育機関からの講話依頼に継続して協力しています。今年度も常磐大学高等学校より「社会人講話」の依頼をいただき、10月29日に高校1年生を対象とした講演を実施しました。同校からの依頼は前年度に続くものであり、本会

の取り組みが学校側に評価されていることを感じました。

講話は一般教室で行い、40分の講話と5分の質疑応答を2回実施しました。生徒は十数種類の職業講座から2つを選んで受講する形式で、臨床検査技師という職種にも多くの関心が寄せられていました。講話では、臨床検査技師の役割や業務内容、検査前から検査後に至るプロセスが医療の安全性や質にどのように貢献しているか、また医療チームの一員としての責任ややりがいについて、高校生でも理解しやすいように工夫してお伝えしました。クイズ形式を取り入れたことで、生徒の皆さんに楽しみながら臨床検査の重要性に触れていただけたと感じています。質疑応答では年収に関する質問もあり、率直で積極的な姿勢が印象的でした。

臨床検査技師は病院内の業務が中心となるため、地域社会に向けて私たちの職能を直接アピールする機会は多くありません。しかし、臨床検査は医療を支える重要な基盤であり、その役割や専門性を若い世代に伝えていくことは、医療職としての公的な責務であると考えています。今回の講話が、生徒の皆さんに医療分野への興味を持っていただくきっかけとなり、進路選択の一助になったのであれば大変意義深いことだと思います。

教育機関との連携は今後さらに広がる可能性があり、常磐大学高等学校だけでなく、他校からも同様の講話依頼や職業理解に関する要望をいただくことが想定されます。また、将来的にはインターンシップや職場見学など、より実践的な協力要請が生じることも考えられます。本会としては、講話内容の標準化や教育機関との協働の強化を図り、社会貢献活動をさらに豊かにしていきたいと考えております。

今回の社会人講話は、臨床検査技師の魅力や専門性を広く発信する良い機会となり、地域に根ざした医療職としての役割を改めて認識する場ともなりました。今後も本会は、地域社会に開かれた活動を継続し、次世代育成に貢献してまいります。

2025.12.12

10月29日(水)に常磐大学高等学校にて「社会人講話」を行いました。これは、高校1年生が将来の進路を主体的に考える契機となるように、一般的な職業紹介より一步踏み込んだ内容について、実社会で活躍する専門家から直接聞く機会を設けたいとの学校側からの要望を受け実施しております。今年には内藤副会長が、臨床検査技師の役割・業務内容、検査前～検査後プロセスと医療の質への貢献、医療専門職としての使命・やりがいについて、質疑応答も含め45分間×2回の講話を行いました。来年度以降も未来の臨床検査技師に向けて実施していく予定です。

渉外公益事業として、11月16日(日)にイオンモール水戸内原にて『全国検査と健康展 in Ibaraki』を開催しました。今年、市民公開講演として講師に筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター総合診療科教授、兼総合病院水戸協同病院 副院長の小林 裕幸先生をお招きし、「眠っている間の生活習慣病～睡眠時無呼吸症候群とは～」と題して講演いただきました。また、小・中・高校生向けの企画として、つくば国際大学に協力いただき、検査技師養成校の紹介と臨床検査体験コーナー(超音波検査体験、血液型測定体験)を行いました。そのほか、例年通り健康チェックコーナーを設け、体組成検査や血管年齢検

査、骨密度検査、物忘れ検査を実施しました。参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



2025.07.09

7月5日(土)に2025年度賛助会員懇談会および創立75周年記念講演・記念式典・祝賀会がホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸にて開催されました。

賛助会員懇談会は2階千波(EAST)にて開催され、例年通り大塚会長の挨拶から始まり、事業報告と事業計画報告、学術研究部の活動報告と活動予定報告、公益事業IおよびIVの今年度活動予定報告が行われました。今年度も多くの賛助会員の皆様にご参加いただき開催することができました。賛助会員の皆様、今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。



その後、同じく千波(EAST)にて一都八県の臨床検査技師会代表の方々や記念式典に参加予定のご来賓の方々も加わり、創立75周年記念のイベントが開催されました。はじめに公益社団法人日本臨床検査同学院理事長であり、学校法人新渡戸文化学園 新渡戸文化短期大学学長の宮地勇人先生に「変貌する医療と臨床検査技師-教育と国際基準が導く新時代」についてご講演いただきました。宮地先生は医師になって間もなく、水戸赤十字病院で血液内科を立ち上げ、その時代に多くの医療技術を学んだことが今の基礎に繋がっておられるとのことでした。茨城県と繋がりが深いことを強調していただき、茨城県で医療に携わる者として嬉しく感じました。



続いて同会場にて、創立 75 周年記念式典が執り行われました。式典では、茨城県の飯塚副知事をはじめ多くのご来賓の方々にご祝辞を賜り、当会名誉会員の直井芳文氏からもご挨拶を頂戴しました。また茨城県知事表彰に岡野直樹氏、茨城県保健医療部長表彰に関谷幸浩氏、当会の会長表彰として下野真義氏、鈴木貴弘氏、戸枝義博氏、上田淳夫氏、岡野正道氏、間中伸行、安田正徳氏、同じく当会特別功労賞表彰に川崎智章氏が表彰されました。多くのご来賓、出席者のもと盛大に挙行することができましたこと、厚く御礼申し上げます。



イベントの最後は会場を 2 階 千波(WEST)に移して創立 75 周年記念祝賀会が開催されました。大塚会長の挨拶に続いて国立大学法人筑波大学医学医療系感染症内科学教授で筑波大学附属病院検査部部長の鈴木広道教授にご祝辞をいただいた後、当会顧問の池澤剛氏から歌劇「椿姫」の乾杯の歌が披露されました。75 周年記念のアレンジを加えていただき参加した皆様の緊張も一気に解け、乾杯と共にその後の宴が和やかに進みました。宴半ばには、来賓の皆様のご祝辞、一都八県の代表者の皆様による自団体のご紹介、また各受賞者のご紹介・花束贈呈として、今年度、昨年度の県民健康づくり表彰知事賞の岡野直樹氏、八杉晃則氏、馬場由美子氏、今年度、昨年度の県民健康づくり表彰保険医療部長賞の関谷幸浩氏、内藤麻美氏、花田貴之氏、第 44 回福見秀雄賞の池澤剛氏、2025 年度春の叙勲 瑞宝双光章の山元隆氏が紹介されました。



2025 年度賛助会員懇談会、そして創立 75 周年記念講演・記念式典・祝賀会が多くの皆様のご参加のもと、盛大に開催できましたことをあらためまして御礼申し上げます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2025.06.18

6 月 15 日に 9 回目の茨城県臨床検査技師会担当のタスク/シフトシェアに関する厚生労働大臣指定講習会の実技講習が開催され、参加者 78 名が全課程を修了しました。

今回募集枠を 90 名で設定しましたが 80 名の応募と若干の空きがみられる状況でした。

講習会では、「施設でタスクシフトを検討している」からと積極的に講師に質問をする参加者もみられ、本活動が浸透してきていることを実感した会になりました。

現在の茨城県での講習修了者は 594 名、基礎講習履修済み 99 名、基礎講習履修中 97 名となっております。

今年度、引き続き講習会を開催する予定ですので、未受講の会員の皆様のご参加をお待ちしております。



2025.03.28

3 月 23 日（日）に 8 回目の茨城県臨床検査技師会担当のタスク/シフトシェアに関する厚生労働大臣指定講習会の実技講習が開催され、参加者 84 名が全課程を修了しました。今回は受講人数を通常より 24 名多い 84 名で設定しましたが、今回も申込み開始から短期間に定員に達するという状況でした。

現在の茨城県での講習修了者は 514 名、基礎講習履修済み 133 名、基礎講習履修中 116 名となっております。2025 年度も引き続き講習会を開催する予定ですので、未受講の会員の皆様のご参加をお待ちしております。



2025.02.17

2月12日（水）に令和6年度県民健康づくり表彰式が茨城県庁にて開催されました。この表彰式において、「多年にわたり臨床検査技師として医療福祉に関わる活動や県主催の事業に尽力するとともに、茨臨技の役員を歴任し地域住民の健康づくりに貢献した」として、当会から4名の方々が表彰されました。

知事賞：馬場由美子氏、八杉晃則氏
保健医療部長賞：内藤麻美氏、花田貴之氏

表彰された皆様、誠におめでとうございます。



2025.01.21

本年もよろしくお願いいたします。

「辰巳天井」という格言があるように今年の臨床検査の相場も高値が続き、大いに活躍の年としたいものです。

昨年の12月に医療事故調査・支援センターより、「血液検査パニック値に係る死亡事象事例の分析」が公表されました。その中で血液検査パニック値に係る死亡事象（12事例）の分析と、血液検査パニック値に関する5つの提言が示されております。この提言への対応は、我々臨床検査技師の責務と捉え、行動していくことが重要と思います。

3月1日（土）にこの提言書の説明会が開催されます。オンデマンドでも視聴できますので1人でも多く



の会員が参加されるようお願いいたします。

2024.12.12

11月10日（日）に第41回茨城県臨床検査学会がつくば国際会議場にて開催されました。今回は南西地区担当で実行委員9名、運営委員39名のもと行われましたが、内容は、医師であり医療ジャーナリストの森田豊先生による市民公開講演のほか、参加型教育講演、ワークショップ、ランチョンセミナー、一般演題では47演題の発表、うち26演題は学会発表デビューの会員や学生の発表と盛大なものでした。学会式典では茨臨技顧問の池澤剛氏に来賓ご挨拶をいただき、学術業績表彰として村田佳彦氏、渡邊真博氏、特別賞として横山千恵氏が表彰されました。また、今年の元日に発生した能登半島地震に対して、関甲信支部・首都圏支部から依頼された被災地への災害支援活動に率先して参加して下さったことに感謝し、筑波記念病院の和田英明氏と筑波メディカルセンター病院の安田正徳氏に対して感謝状の贈呈式も行われました。

学会の最後には「帰ってきたクイズ大会」が開催され、締め括りとして大変な盛り上がりとなりました。参加者の合計は372名、展示会社11社、会誌広告会社16社でした。関係した皆様、お疲れさまでした。



2024.10.24

10月20日に茨城県臨床検査技師会担当のタスク/シフトシェアに関する厚生労働大臣指定講習会の実技講習が開催され、参加者60名が無事に終了しました。今回は申込み開始から僅かの中に定員に達するという盛況ぶりでした。今年度の新卒者が多数受講されたことも影響しているかと思われますが、来年度以降の新卒者は在学中にカリキュラムとして組み込まれているため、受講者は減少に転じていくものと思われます。それに合わせ、この講習会の開催も減少していくものと思われますので、未だ未受講の会員は次回以降早めにお申し込みください。現在の講習修了者は425名、基礎講習履修済み145名、基礎講習履修中147名となっております。



2024.10.1

早いもので、2024年度も本日から下期に入ります。本日10月1日は、茨臨技精度管理事業の試料配布日です。参加施設には本日中に試料が届きますので、速やかに対応をお願いいたします。当会の精度管理事業は、県内各施設の検査データの統一および質の確保を目的としており、毎年、報告書は実際の検査に役立つように精度管理委員が詳細に解説を行っております。ぜひ、ご活用ください。

報告になりますが、9月28日(土)に第3回理事会および学術部会議がセキショウ・ウェルビーイング福祉会館4階中研修室にて行われ、新体制になってからの事業報告や今後の予定に関する内容が話し合われました。参加された関係各位、お疲れさまでした。

11月10日(日)に第41回茨城県臨床検査学会がつくば国際会議場で開催されます。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。なお、その際には事前登録にご協力をお願いいたします。

2024.07.09

7月6日(土)ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸2階の千波会場にて技師長・賛助会員懇談会、その後に懇親会および受賞祝賀会が開催されました。

懇談会では、新たに就任された大塚会長の挨拶から始まり、昨年度事業報告と今年度事業計画、学術研究部による昨年度活動報告と今年度活動予定、今年度の公益事業ⅠおよびⅣの活動予定が報告されました。その後、11月10日（日）に開催される第41回茨城県臨床検査学会の概要について、大塚学会長がスライドを映写しながら報告しました。

懇親会および受賞祝賀会では、懇談会後も残っていただいた多くの会員参加のもと、中山商事株式会社の萩谷様による印象的な乾杯のご挨拶をスタートに参加した皆様が和気藹藹と親睦を深め、特に賛助会員スピーチではゲーム感覚で与えられた課題を交えながらご挨拶いただき、各社の雰囲気を知る良い機会となりました。また、今回は会の中ほどで「健康づくり推進事業功労者表彰」を受賞した岡野直樹氏の表彰式を執り行い、ご本によりご挨拶を賜りました。宴の最後は、ニッポーボーメディカル株式会社の目黒様による一丁締めで閉会となりました。

賛助会員の皆様、今年度もどうぞよろしくお願いたします。



2024.05.30

5月26日（日）セキショウ・ウェルビーイング福祉会館のコミュニティーホールにおいて、2024年度通常総会が開催されました。根本会長挨拶のあと、議長団として東京医科大学茨城医療センターの柏木淳一氏と総合守谷第一病院の菊池美保子氏が選出され、資格審査、書記任命、議事録署名人選出を経て、第一号議案から第七号議案まで審議、承認されました。その他、審議事項としてセントラル医学研究所の池澤剛氏より新理事改選時の案内方法と名誉会員についてご提案があり、根本会長より2024年度新役員体制での検討課題とする旨の回答がありました。

総会の後には、功労者表彰9名と永年会員表彰14名の表彰式が開催されました。表彰された皆様、誠にありがとうございます。



2024.04.12

4月7日（日）にセキショウ・ウェルビーイング福祉会館の中研修室において、2023年度の会計監査が行われました。

無事終了しましたことをご報告いたします。関係した皆さま、お疲れさまでした。

2024.03.4

2月18日に第29回臨床検査フォーラムがWeb開催されました。タイトルは慢性閉塞性肺疾患(COPD)ってなに? ~検査と病気のはなし~で、臨床検査技師と臨床医の立場からそれぞれご講演いただきました。参加者は一般県民の方と当会会員のほか、全国の臨床検査技師の方も多数参加されました。来年も県民の方々からのご要望の多い内容をテーマに開催する予定です。

13:05 ~ 13:35

講演1. 「COPDと肺機能検査」



講師: JA茨城県厚生連総合病院 水戸協同病院臨床検査部
臨床検査技師 海野 貴史 技師

13:35 ~ 14:35

講演2. 「一から学ぼうCOPD ~肺の生活習慣病~」

講師: 筑波大学 医学医療系 呼吸器内科学
増子 裕典 先生

2024.02.01

1月28日に6回目の茨城県臨床検査技師会担当のタスク/シフトシェアに関する厚生労働大臣指定講習会が開催されました。

講習会参加者は59名で、茨城県での修了者は362名となりました。

引き続き講習会は開催されますので、会員の皆様方の御参加よろしくお願いします。

タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会

茨城県臨床検査技師会 実務責任者 新発田 雅晴



2024.01.04

本年もよろしくお願いいたします。

辰年は運氣上昇、景気上昇と言われ伝えられていますが、6月に予定されている診療報酬改訂も上昇気流に乗れることを願ってやみません。そして、その勢いに乗ってタスク・シフト/シェアでも臨床検査技師の活躍の場が広がっていくスタートの年にしたいものです。



新年早々、悲しいニュースが発生しました。元日には令和 6 年能登半島地震、翌 2 日には航空機が羽田空港で炎上するという未曾有の正月となりました。今日現在、被害状況の全貌は明らかではありませんが、被害を受けた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、救命救助に当たられている方々へ感謝申し上げます。当会としても今後の動向を見守り対応してまいります。

2023.12.20

本日から、会員の皆様に向けた「茨臨技ニュース」の掲載を開始いたします。今まで X(旧 Twitter)社のタイムラインにて情報発信しておりましたが、それに代わるコンテンツとしてご利用ください。併せて、ホームページを一部変更しました。変更点は、

- ・ X(旧 Twitter)社タイムラインの削除および「茨臨技ニュース」の掲載開始
- ・ TOP 画面タブの大きさ変更および「新着情報」タブの削除

(新着情報は TOP 画面から直接ご覧ください)

- ・ TOP 画面の「研修会情報」削除

(研修会情報は TOP 画面タブおよびサイドバナーからご覧ください)

となります。ご利用の際はご注意ください。

今年度は皆様もご存じのとおり、(一社)日本臨床衛生検査技師会の令和 6・7 年度会長候補者選挙が行われます。投票期間は令和 5 年 12 月 18 日～令和 6 年 1 月 4 日までとなっております。会員の皆様におかれましては、必ず会員の権利を行使(投票)するようお願いいたします。